9月
Sep. 2023
沖縄開教本部通信
vol.107

ハイサイ沖縄

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

第2回 沖縄から奪われたもの

国土面積の0.6%しかない沖縄県に、在日米軍専用施設の70%が集中しています。沖縄本島の15%の面積です。二〇一六年に海兵隊北部訓練場が返還されましたが、そのヤンバルの森には、今も米軍が残していった銃弾・薬きょうや放射性物質を含む部品などが廃棄されたままになっており、生態系への影響が危惧されています。

在沖米軍の7割は海兵隊基地ですが、これらは敗戦後、元々は日本本土の各地に分散していました。それが高度経済成長に突入するころから本土での基地反対運動が激しくなり、沖縄に集中移転されたのです。もちろん沖縄でも大きな反対運動が起きましたが、理不尽にも銃剣とブルドーザーで基地建設が強行されました。沖縄の自己決定権は今も奪われたままです。

こうして本土で基地の返還が進み、沖縄への集中度が高まりました。今、日本人の8割が日米安保条約を是認しています。

米兵が起こす事件・事故や、軍用機の騒音による生活環境の破壊などがよく取り上げられますが、広大な土地が米軍に占拠されて続けている状況は、非常に様々な分野で負の影響を及ぼしています。それをすべて述べるには紙面がいくらあっても足りません。

かつての枢軸国日本は敗戦後、サンフランシスコ講和条約により国際的に〝赦し〟が得られ、戦後復興と高度経済成長の機会を与えられました。しかし、そうした日本の〝復興・成長の歴史〟を沖縄は共有していません。それどころか、産業・商業に最適な土地を米軍基地にとられ、経済の自立的成長の機会が奪われました。

それだけではありません。社会を再構築しなければならない重要な時期に非民主的な米軍支配下に置かれたために、社会保障制度や労働者の権利保障などの立ち遅れが続きました。このことが沖縄社会に大きな影響を及ぼし、生活基盤の様々な面における本土との格差が依然引きずられていることを指摘する識者もいます。

もう一つ、沖縄人は政治を奪われてきました。日米の圧倒的な力の前に、米軍基地の押し付けに抗することをあきらめ容認の立場をとる政治勢力と、基地の存在に真っ向から反対し続ける政治勢力に、沖縄は長らく分断されてきました。選挙というものは、経済、教育、福祉…様々な課題について議論を交わして選択をする。この繰り返しの歴史によって社会はより良いものへと育って行くのではないでしょうか？

しかし沖縄の選挙は、「基地は是か非か」で色分けされ、相対的にその他の分野の議論が軽くなってしまう傾向があります。本当は、基地は是か非かに巻き込まれずに、純粋に沖縄の経済や教育、子育て、地域づくりなどについて考えたいのに…（照屋）

（つづく）

※東京23区のうち色塗りの部分の13区の面積は約1万8,701ヘクタール。

沖縄県ホームページよりhttps://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/land/sugata/kichi.html

ハイサイ沖縄

「慰霊の日」

六月二十三日、沖縄県は「慰霊の日」を迎え、平和祈念公園内の「平和の礎（いしじ）」には、お供えを持って参拝する家族が一日中多くみられた。また新たに三六五人の名前が追加され、刻銘者総数は二四万二〇四六人となった。

沖縄戦の組織的な戦闘が終結したとされる日から七八年が経過するが、県内には今なお生活を脅かす不発弾が残され、遺骨収集は難航し、戦後処理は終わっていない。「戦後」は歳月を重ねる一方、政府による南西諸島の軍備強化や厳しさを増す国際情勢など、「新たな戦前」の岐路に立つ状況が指摘される。

平和祈念公園では沖縄全戦没者追悼式が催されたが、コロナ規制の緩和にともない今年は四年ぶりに一般参列者の入場や焼香も実施されたが、入り口に検査ゲートが設けられ、子供から高齢者まで隅々まで検査され、「誰の為の集会かわからない」「雰囲気が変わった。警備が多すぎる」などの声があがっていた。

「人生ゼミナール」

開教本部設置から毎年続けていた企画、「人生ゼミナール」もコロナ禍を経て四年ぶりの開催となった。今回も「歎異抄講座」を県外から講師を招き、第一回「地獄は一定住みかぞかし」（大阪・瑞興寺　清氏）、第二回「歎異抄の中の物語」（京都・正連寺　平原氏）、第三回「まことのみむねいただかん」（長崎・相善寺　相良氏）とシリーズで開催した。三氏とも沖縄別院に深くかかわっていただいている方で、沖縄の御門徒も久しぶりにお話を聞くことができ、質疑応答の時間には、活発に質問や感想が飛び交い、充実した時間となった。

コロナも五類となり、これからいよいよ以前と変わらぬ教化活動ができそうだ。期待感を持ちながらも気を引き締めていきたい。

コラム

「安名尊（あなとうと）い、御尊（おんとうと）い」

沖縄でお盆といえば「旧盆」のことで、今年は八月二十八～三十日にあたります。昨今までは、コロナの影響でなかなか家族が集まる事もままならい世相でしたが、今年はようやく皆で集まれそうです。

沖縄では御先祖様、仏前、お墓に対し、胸の前で手を合わせ、「アートォートゥー、ウートォートゥー」と言葉にするのが一般的です。

これには諸説あると思いますが、よくいわれるのが「安名尊い、御尊い」という言葉からきているのだと聞いたことがあります。「安名」は古語で「あぁ。（感動したとき）」という意味があるそうで、そのあとは、尊ぶという漢字が入っている通り、手を合わす方に対し有り難うの意と尊敬の念が表されているということです。そして、その言葉が沖縄の訛りになったということです。

沖縄は、御先祖様を尊び、慕い、想うという文化が色濃く根付いています。なので、御先祖様に手を合わすという事は、此処・現在を生きる私にまで、いのちを届けて下さり有り難うございますと、改めて感謝申し上げる。そういうことが、沖縄のお盆の想い方の一つなのではないでしょうか。

さて、皆様は何を思いながら、お墓や仏壇に手をあわせますか？亡き方々に手を合わせ、御先祖様はもちろん、自身や周りの人々、また世界中のいのちについて考える機会にしたいです。

教化拠点　常照寺　法務員　徳元　尚太

ハイサイ沖縄　第107号　2023年9月1日　隔月1日発行　発行所：真宗大谷派沖縄開教本部　発行者：長谷　暢
〒901-2223　沖縄県宜野湾市大山2-32-21　TEL098-890-2490　WEB：http://shinran-oki.org/